

令和6年度 第1回印西市部活動地域移行推進協議会 次第

日時：令和6年5月20日（月）

13：30～

場所：印西市役所4F 41会議室

開会

1 教育長挨拶

2 委員の委嘱

3 自己紹介（P2の名簿順に）

4 会長・副会長の選出

5 報告事項

（1）昨年度までの印西市部活動地域移行の取組について（P4～P5）

（2）部活動地域移行リーフレット vol.1～vol.4 （P10～P14）

6 協議事項

（1）令和7年度モデル実証事業について（P6）

令和5年度部活動実態調査（P8～9）

（2）令和6年度9月補正予算の要求について（P7）

7 その他

閉会

【今後の協議会の予定】

■印西市部活動地域移行推進協議会

第1回(5/20) 第2回(7/4) 第3回(10/9) 第4回(1/24)

印西市部活動地域移行推進協議会設置要綱

(設置)

第1条 印西市立中学校における部活動(以下「部活動」という。)の地域移行に向けた課題に総合的に取り組むため、印西市部活動地域移行推進協議会(以下「推進協議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進協議会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 部活動の地域移行に係る調査、研究に関すること。
- (2) 部活動の地域移行に係る情報収集に関すること。
- (3) 部活動の地域移行に係る仕組みづくりに関すること。
- (4) その他、部活動の地域移行に係る必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 推進協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次の号のうちに掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 印西市立中学校の校長
- (3) 印西市立中学校の生徒の保護者
- (4) その他、教育委員会が必要と認める者

(守秘義務)

第4条 推進協議会の委員であった者又は協議会に出席した者は、正当な理由なく推進協議会の職務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、委嘱の日から令和8年3月31日までとする。

(会長及び副会長)

第6条 推進協議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、会務を総理し、推進協議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 推進協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又はこれらの者から必要な資料の提出を求めることができる。

(推進協議会の庶務)

第8条 推進協議会の庶務は、教育部指導課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この告示は、令和5年4月1日から施行する。

(会議の招集の特例)

- 2 この告示の施行後最初の会議の招集は、第7条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が行う。

(この告示の失効)

- 3 この告示は、令和8年3月31日限り、その効力を失う。

印西市部活動地域移行推進協議会 委員・事務局名簿

【委員】

	氏 名	所 属
1	青木 和浩	順天堂大学スポーツ健康科学部 教授
2	磯 昌稔	印西市立印旛中学校 校長
3	吉野 高明	印西市立小倉台小学校 校長
4	宇佐美美奈	印西市 PTA 連絡協議会代表者
5	渡辺 敏雄	印西市スポーツ協会 副会長
6	荻原 健一	印西市スポーツ少年団 本部長
7	田口 光浩	印西市健康子ども部 部長
8	川嶋 将行	印西市健康子ども部スポーツ振興課 課長
9	三門 宜典	印西市教育委員会教育部 部長
10	飯島 正義	印西市教育委員会教育部生涯学習課 課長

【事務局】

	氏 名	所 属
1	石川真樹子	印西市教育委員会教育部指導課 課長
2	深澤 淳一	印西市教育委員会教育部指導課 副参事
3	山崎 智貴	印西市教育委員会教育部指導課 指導主事
4	伊東 洋樹	印西市教育委員会教育部指導課 指導主事

令和6年度印西市部活動地域移行推進協議会日程

回	会議	日程	場所
第1回	地域移行検討委員会	5月 9日（木）	41会議室
	印西市部活動地域移行推進協議会	5月20日（月）	41会議室
第2回	地域移行検討委員会	6月26日（水）	4F相談室
	印西市部活動地域移行推進協議会	7月 4日（木）	41会議室
第3回	地域移行検討委員会	10月 2日（水）	203会議室
	印西市部活動地域移行推進協議会	10月 9日（水）	41会議室
第4回	地域移行検討委員会	1月17日（金）	41会議室
	印西市部活動地域移行推進協議会	1月24日（金）	41会議室

※検討委員会：事務局（指導課）・スポーツ振興課・中学校代表校長で

協議会前に協議事項等を事前に検討・準備していきます。

※検討委員会も協議会も会議は午後1時30分～を予定しております。

■令和6年度の協議会での議題（予定）

第1回 モデル事業の種目決定と実証事業の予算について

第2回 R7モデル実証事業の仕様書と予算の積算について

※9月補正予算資料提出期日が7月中旬のため

第3回 R8本格事業の当初予算の積算について

※R7当初予算が10月中旬のため

第4回 今後のスケジュール プロポーザル・契約について

※課題が出てくると思いますので、その都度、課題を議題にかけていきます。

〔令和５年度印西市部活動地域移行推進協議会の協議内容〕

第１回 ５月１９日	○印西市部活動地域移行の方向性 ⇒印西市の実情に合わせた独自のスケジュールで実施 - 令和８年度に地域移行をスタートすることに焦点を合わせる - 子どもたちに不利益のないようにする
第２回 ７月１８日	○部活動地域移行の運営 ⇒総合型スポーツクラブ（牧の原スポーツクラブ）の実態 ○地域移行の実施主体と運営団体について ⇒実施主体になりえる組織はない ⇒業者への委託を検討
第３回 ９月２８日	○印西市のモデル事業実施について ⇒実施するには失敗は許されない（子どもたちの不利益） ⇒一斉に移行はリスクが高い ⇒モデル実証事業を行う ○地域移行の周知について ⇒地域移行リーフレットを発行 ⇒児童生徒・保護者向けアンケートの実施
第４回 １２月１８日	○アンケート結果の分析 ⇒リーフレットを通じて情報公開 ○地域移行を進めるにあたっての検討事項 ⇒地域クラブの大会参加についての確認 ⇒モデル実証事業の種目設定 ○次年度以降のスケジュール ⇒令和６年度補正予算・令和７年度当初予算の積算 ⇒業務委託の仕様書作成 ⇒令和８年度９月より地域移行できるように準備を進める

〔県の部活動地域移行スケジュールの指針〕

- 令和５年度 市町村 １部活以上の地域移行
- 令和６年度 全中学校で １部活動の地域移行
- 令和７年度 全中学校で複数の部活動の地域移行
- 令和８年度 各市町で示した計画に沿った具体的な取組

〔印西市独自の部活動地域移行スケジュール〕

- 令和５年度 部活動地域移行推進協議会設置
- 令和６年度 部活動地域移行に向けたモデル事業準備・本格実施に向けた予算積算
- 令和７年度 新チーム（９月～）から １～２種目の地域移行モデル事業を実施
- 令和８年度 新チーム（９月～）から 市内の休日の全部活動の地域移行を実施

〔部活動地域移行にかかわる印西市の実態〕

○大規模校と小規模校が混在

○成田線沿線と北総線沿線の学校の生徒数の変遷（増減）

⇒ひとつの部活動あたりの部員数（多：80人 少：2人）

⇒学校ごとの設置部活動数の格差（多：18部活動 少：2部活動）

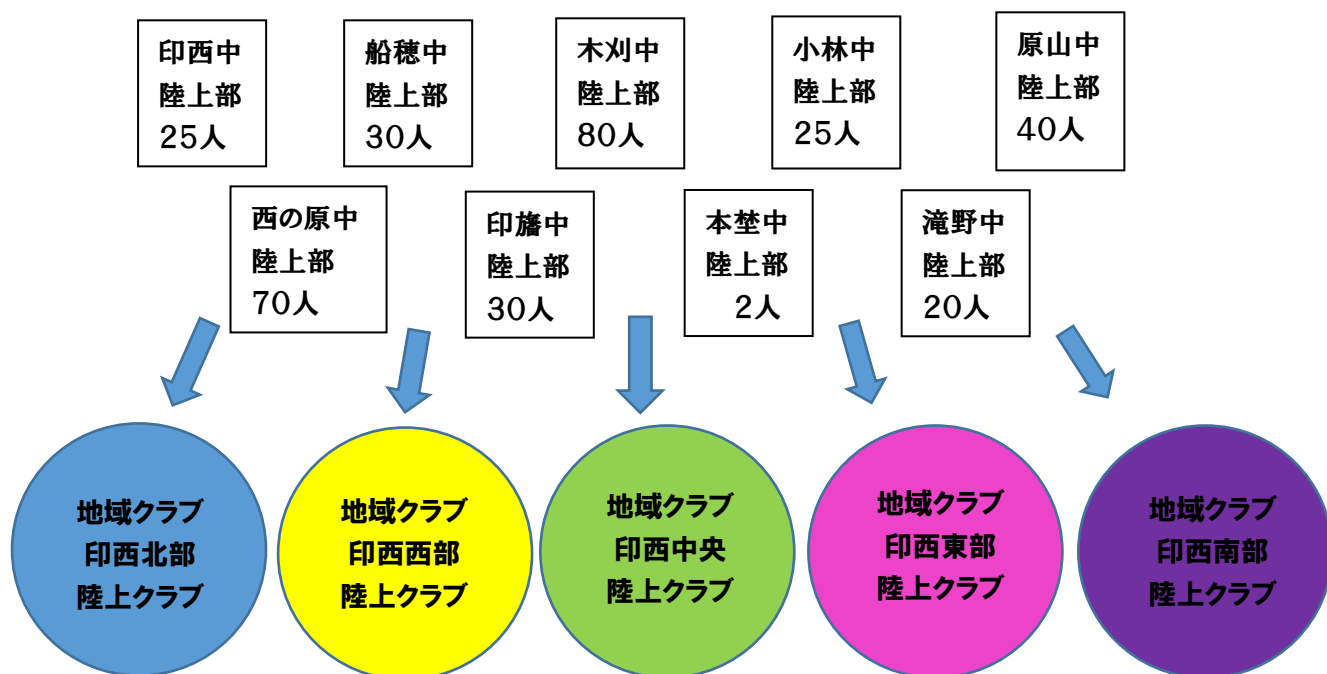
⇒性別的な部活動設置の格差（女子○○部はあるのに男子○○部がない）

⇒学校施設の問題（生徒数増加で新設部活動を設置したいが活動場所がない）

※学校ごとの課題ではなく、市全体の課題として共有し解決策を考えていく必要あり

〔印西市部活動地域移行の在り方（イメージ図）〕

（例）印西市が目指している部活動地域移行



○地域クラブの設置予定数（令和5年度部活動実態調査の部員人口より算出）

【運動系】

陸上競技（9） 野球（4） サッカー（5） 男子バスケ（5）
 女子バスケ（4） 男子バレー（1） 女子バレー（5） 卓球（6）
 男子バドミントン（4） 女子バドミントン（4） 男子硬式テニス（1）
 女子硬式テニス（1） 男子ソフトテニス（2） 女子ソフトテニス（4）
 柔道（1） 剣道（3）

【文科系】

吹奏楽（9）

合計68地域クラブ（予定）

⇒ 印西市内休日の活動がある約100の部活動を約70の地域クラブへ地域移行

協議事項（１）「令和７年度モデル実証事業について」

◆令和５年度第１回協議会にて

- ・子どもたちに不利益がないようにという大前提のもとに
令和８年度中に市内全体で部活動地域移行を実施できるようにしていく。

◆令和５年度第３回協議会にて

- ・モデルを実施するには失敗は許されない（子どもたちの不利益）
- ・令和８年度一斉地域移行はリスクが高い ⇒ **モデル事業の必要性**
- ・モデルの実施によって生徒や家庭や学校が地域移行のイメージをつかめる

■実証事業（モデルの種目）について

- 県が示すスケジュールは暫定的な地域移行のモデル事業であるが印西市としては**本来の在り方（ゴールを見据えた）での地域移行前段階としてモデル実施**を予定
- モデル事業については、実証する種目は土日の学校部活動としての活動を停止する
- モデル事業では、継続する学校部活動と地域クラブで生徒の格差をなくす。
→モデル実証中の地域クラブの受益者負担・保険料については市が補助する。
- モデル事業の種目の指導者（兼職兼業の教員も含める）は、民間企業に委託する実施主体から報酬（指導料・謝金・交通費等）を受ける。
- 男女の比較、室内とグラウンド比較、個人競技と集団競技のような対称的なモデル

【事務局として実証種目として想定したもの】

- 陸上競技：全９中学校に設置があり、全校でモデルになりイメージしやすい
- 野球：単独チームではなく合同チームで出場しているチームが多いため
- 柔道：柔道専門の指導者が顧問につくことが難しいため（市内２校）
- 硬式テニス：部活動設置校が少ないため（２校）
- 男子バレー：部活動設置校が少ないため（２校）

⇒ 令和６年３月７日 臨時中学校長会を開催

【校長会として実証種目として臨むもの】

- ・モデル事業をするのなら、失敗しても課題があっても良いので母体が大きいもの
- ・対称的なモデルのもので男子のモデルと女子のモデルの比較できるもの
- ・市内９校がモデルの実証事業に関わることができるもの

⇒ 学校現場の意見を踏まえて、**野球・女子バレー**をモデルで実証事業

協議事項（２）「業務委託と予算について」

野球・女子バレーでの実証事業を進めるにあたり、
印西市では、競技人口に合わせて、適切な数の地域クラブを設置していく。

『令和５年度部活動実態調査』より

野球：１３０人 → **４クラブ** 女子バレー：１８０人 → **６クラブ**

⇒合計１０地域クラブで部活動地域移行モデル実証事業を実施する。

【協議事項】業者に委託する部分

	項目	事務局としての想定
①	受益者負担について	月謝 2000 円～3000 円 年会費 5000 円
②	困窮世帯への補助	準要保護家庭への補助
③	事務局運営について	統括コーディネーター業務 指導者・生徒の登録・配置、月謝の徴収、指導者報酬 の支払い、勤怠管理、生徒管理、指導者研修 等
④	指導者データバンク	業者に委託（ちばクラサポ）
⑤	生徒管理システム	業者に委託
⑥	連絡ツール	業者に委託（部活動アプリ）
⑦	休日の活動日	土・日・祝の５回／月 × 12 か月 = 60 回
⑧	大会の引率日	25 回／年 生徒引率・大会運営含む
⑨	指導者の報酬	時給 1600 円～2000 円（要確定申告）
⑩	指導者の交通費	一律 500 円／日
⑪	備品・消耗品	道具・機材・ユニフォーム等
⑫	その他	

令和７年度は県教委からの補助金があるため、

このモデル事業で地域移行に係る初期投資（システム・連絡ツール等）で整備を行い、
２年目以降、受益者負担で自走できる地域移行の在り方を模索して準備していきたい。

（予算的なことも含めて市の持ち出しがなくても自走で実施できるように）

⇒ **この項目をポイントに業者から見積依頼し、R6補正予算において予算要求。**

令和5年度 部活動別・男女別・学年別加入者数

No.	部活動名	男 子				女 子				合 計			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
1	陸上(男子)	70	64	69	203	0	0	0	0	70	64	69	203
2	陸上(女子)	0	0	0	0	42	37	26	105	42	37	26	105
3	野 球	38	36	51	125	2	2	1	5	40	38	52	130
4	サッカー	74	34	46	154	4	2	0	6	78	36	46	160
5	バスケ(男子)	53	46	49	148	0	0	0	0	53	46	49	148
6	バスケ(女子)	0	0	0	0	45	26	36	107	45	26	36	107
7	バレー(男子)	13	12	13	38	0	0	0	0	13	12	13	38
8	バレー(女子)	0	0	0	0	67	47	64	178	67	47	64	178
9	卓球(男子)	40	38	34	112	0	0	0	0	40	38	34	112
10	卓球(女子)	0	0	0	0	20	26	6	52	20	26	6	52
11	バドミントン(男子)	30	40	26	96	0	0	0	0	30	40	26	96
12	バドミントン(女子)	0	0	0	0	49	51	34	134	49	51	34	134
13	硬式テニス(男子)	11	5	6	22	0	0	0	0	11	5	6	22
14	硬式テニス(女子)	0	0	0	0	15	4	18	37	15	4	18	37
15	ソフトテニス(男子)	25	25	28	78	0	0	0	0	25	25	28	78
16	ソフトテニス(女子)	0	0	0	0	46	53	33	132	46	53	33	132
17	ソフトボール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	柔道(男子)	7	11	5	23	0	0	0	0	7	11	5	23
19	柔道(女子)	0	0	0	0	2	5	4	11	2	5	4	11
20	剣道(男子)	20	23	25	68	0	0	0	0	20	23	25	68
21	剣道(女子)	0	0	0	0	13	14	5	32	13	14	5	32
22	美術(創作)	12	5	19	36	72	71	56	199	84	76	75	235
23	吹奏楽(音楽)	19	8	23	50	79	77	91	247	98	85	114	297
24	科学・生物	59	44	29	132	8	13	7	28	67	57	36	160
25	英語劇(EAC)	1	0	11	12	3	1	3	7	4	1	14	19
26	水泳(大会参加のみ)	0	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	2
27	新体操(大会参加のみ)	1	0	0	1	1	1	2	4	2	1	2	5
28	国語	1	2	1	4	16	9	5	30	17	11	6	34
	計	474	393	435	1302	485	440	391	1316	959	833	826	2618

令和5年度 中学校部活動実態調査 【部活動数】【休日の実施】【所属人数】【受け皿(案)】

	部活名	印西中	船穂中	木刈中	小林中	原山中	西の原中	印旛中	本埜中	滝野中	計	競技人口	必要 クラブ
1	陸上(男子)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	203	10
2	陸上(女子)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	7	105	
3	野 球	○	○	○	×	○	○	○	○	○	8	130	5
4	サッカー	×	○	○	×	○	○	○	×	○	6	160	5
5	バスケ(男子)	○	○	○	×	×	○	○	×	○	6	148	5
6	バスケ(女子)	○	○	○	×	○	○	○	×	○	7	107	4
7	バレー(男子)	○	×	×	×	×	×	○	×	×	2	38	1
8	バレー(女子)	○	×	○	○	○	○	○	×	×	6	178	5
9	卓球(男子)	○	○	○	×	○	×	○	×	×	5	112	6
10	卓球(女子)	○	○	×	×	○	×	○	×	×	4	52	
11	バドミントン(男子)	×	×	×	○	×	○	×	×	○	3	96	4
12	バドミントン(女子)	×	×	○	○	×	○	×	×	○	4	134	4
13	硬式テニス(男子)	×	×	×	○	×	×	×	×	×	1	22	1
14	硬式テニス(女子)	×	×	×	○	○	×	×	×	×	2	37	1
15	ソフトテニス(男子)	×	×	○	×	×	×	×	×	○	2	78	2
16	ソフトテニス(女子)	○	×	○	×	×	○	○	×	○	5	132	4
17	ソフトボール	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	0	
18	柔道(男子)	○	×	×	×	×	×	○	×	×	2	23	1
19	柔道(女子)	○	×	×	×	×	×	○	×	×	2	11	
20	剣道(男子)	×	×	○	○	○	○	○	×	○	6	68	3
21	剣道(女子)	×	×	○	○	○	○	○	×	○	6	32	
22	美術(創作)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	235	
23	吹奏楽(音楽)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	8	297	8
24	科学・生物	×	×	○	×	○	○	○	○	×	5	160	
25	英語劇(EAC)	×	×	○	×	×	×	×	×	×	1	19	
26	水泳	×	×	×	×	×	○	×	×	×	1	2	
27	新体操	×	×	×	×	×	○	×	×	×	1	5	
28	国語(書道)	×	×	○	×	×	×	×	×	×	1	34	
	計	14	10	18	11	14	17	18	4	13	119	2584	69
休日の部活動		毎週	96	隔週	4	実施なし	17	非常置	2	(案)			

印西市の 部活動地域移行について

vol.1

部活動とは…

学校部活動では、だれもが手軽にスポーツ・文化芸術活動に触れることで健康で豊かな生活を送ることができ、社会性や協調性を学び、自主的な活動で心身を成長することができました。

今まで、多くの中学生が部活動で『青春』という時間を過ごしてきました。仲間と一緒に練習を積み重ね、努力の大切さを学び、試合やコンクールでは緊張感の中で練習の成果を出し切ったときの達成感とやりがいは、人として大きく成長させてくれました。今、その部活動がスポーツ庁・文化庁の部活動改革の提言により、大きく新しい形に変わろうとしています。

今後の部活動の在り方

少子化に伴い、将来子どもの数が今より30%減少する見込みであることから、地域や種目によって、活動維持が困難になることが予想されています。印西市でも学校によって設定されている部活動数に差があったり、部員が少なくて廃部になったりする部活動もあります。競技に取り組みたくても取り組めない状況も出てきています。

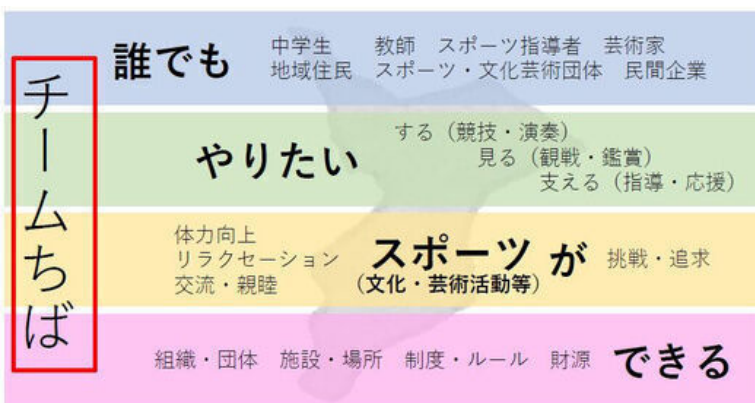
教員と部活動の関わり

教員の仕事は部活動指導はもちろん、教科指導や進路指導など様々な業務があります。教員が授業や学級担任の仕事に重点を置き、様々な場面で輝けるように働き方改革が進んでいます。

子どもたちが将来にわたって、スポーツや文化芸術活動に参加する環境づくりのために部活動は「学校」から「地域」へと移行していきます。

千葉県の施策

千葉県と千葉県教育委員会では、『【千葉県】地域全体で子どもたちを育てる学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン』の中で、学校部活動を地域へ移行するための環境整備として、誰でもやりたいスポーツ・文化・芸術活動ができるというスローガンを掲げ、新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に取り組んでいます。



印西市の部活動地域移行

印西市部活動地域移行推進協議会の中で、印西市の子どもたちに不利益がないようにということにポイントを置き、休日に活動することのできる受け皿（地域クラブ）を設置できるように話し合いが進んでいます。他市町では、今年度から地域移行のモデル事業を始めているところもありますが、印西市では、学校や生徒のみなさんに混乱がないように、令和8年度中に休日の部活動を地域に移行できるように丁寧に準備しています。部活動を地域移行すると、自分の学校に設置されていない部活動の種目に取り組むことや、専門種目の指導者やコーチに練習を指導してもらえるといったメリットが考えられます。複数の種目にチャレンジすることもできます。



お問い合わせ
印西市教育委員会指導課

TEL 0476-33-4705 MAIL sidouka@city.inzai.chiba.jp



印西市の 部活動地域移行について

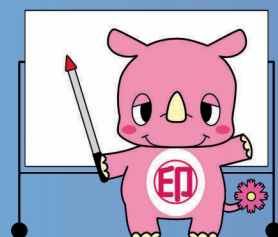
部活動地域移行アンケートの御礼

昨年11月に実施した部活動地域移行のアンケートにご協力いただきました児童生徒・保護者の皆様ありがとうございました。印西市では“子どもたちに不利益がないように”というポイントを定め、課題山積な状況ではありますが、様々な解決策を模索しながら部活動地域移行の準備を進めていきますので、今後ご理解・ご協力をお願いします。

◆◆◆ アンケートの要望・意見・質問 ◆◆◆

【児童生徒】

- そもそも、なぜ部活動地域移行するのですか？《疑問》
- 地域クラブを指導してくださるのは顧問の先生ですか？《疑問》
- 地域クラブとは何ですか？クラブチームとは違いますか？《疑問》
- ラグビークラブやクライミングクラブ、新体操クラブはできますか？《疑問》
- 地域クラブとは何ですか？大会の参加などはどうなるのですか？《疑問》
- 今までの部活動では所属できなかった種目に挑戦できそう。《期待》
- 競技専門の方に高度な技術を指導してもらえる。《期待》
- 他の学校の生徒と切磋琢磨できたり交流を持てたりするのが楽しみです。《期待》
- 地域クラブへ入会するときのお金や活動場所への移動手段など《不安》
- 平日顧問と休日指導者の指導方針の違いや今まで受け継がれた伝統が崩れてしまう。《不安》



【保護者】

- 先生方の負担は計り知れないものです。地域の力を借りて無理のないクラブ活動が必要《期待》
- すべての地域クラブに質の高い指導者の確保はできるのか。《疑問》
- 通知表や内申書など地域クラブでの活動や成績をどのように扱うのか。《疑問》
- 家庭（保護者）の送迎・当番などの負担の軽減も考えてほしい。《不安》
- 部活動地域移行について具体的に詳しく知りたい。《要望》
- 学区の中学校には取り組みたい部活動がないので地域移行が進めば選択肢が増える。《期待》
- 学校外の活動になり、トラブルや問題が起こった時への対処や責任の所在。《不安》

部活動地域移行の周知・公開について

今回のアンケートに多く挙げられたご意見の一部を記載しました。上記以外の結果については、右記のQRコードから閲覧できます。

次号のリーフレットより、スポーツ庁・文化庁の施策や千葉県が示している方針を踏まえ、印西市の部活動地域移行の進捗状況や今後の取組・方向性についても、アンケートの疑問や要望に回答していく形で地域移行に関する情報を公開をしてまいります。

アンケート結果



児童生徒



保護者



お問い合わせ
印西市教育委員会指導課

TEL 0476-33-4705 MAIL sidouka@city.inzai.chiba.jp



印西市の 部活動地域移行について

地域移行についての周知

前号で掲載した部活動地域移行アンケートで多く寄せられたご意見・ご質問について、教室掲示・スクリーン配信のリーフレットを通じて教育委員会指導課から回答いたします。今回は、スポーツ庁・文化庁や千葉県が示している部活動地域移行についてご説明します。4月発行予定の次号リーフレットで、それらの施策を踏まえ、印西市部活動推進協議会で話し合った内容や検討事項、印西市の部活動地域移行の方向性、実施計画等を説明してまいります。

アンケートの回答・説明

●なぜ部活動地域移行をするのか？

【部活動地域移行にいたった経緯】

- 平成30年04月 『運動部活動・文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』
- 令和02年09月 『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について』
- 令和04年06月 『運動部活動の地域移行に関する検討会議提言』
- 令和04年08月 『文化部活動の地域移行に関する検討会議提言』
- 令和04年12月 『（スポーツ庁・文化庁）学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』 ※QRコード1



- 令和05年03月 『（千葉県）地域全体で子どもたちを育てる学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン』 ※QRコード2



【現在の学校部活動の課題】

- 少子化がどんどん進み、将来的に学校単位での部活動の運営が困難
- 働き方改革が進む中で、専門的な指導経験のある教員が顧問を務める体制が困難



- ☆将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保
- ☆地域のスポーツ・文化資源を最大限活用し、生徒のニーズに応じた多様で豊かな活動
- ☆社会全体でスポーツ・文化芸術活動の環境や機会を保障

●部活動地域移行のメリット・デメリットは？

- 《メリット》
- 学校規模に関係なく、学校の部活動にはない競技や種目も選択できます。
 - 競技や種目専門の指導者から専門的な技術指導を受けられます。
 - 部活動としてではなく地域クラブとして大会に出場することができます。
 - 学校とは違う人間関係や友達をつくることができます。
 - 将来的には生涯スポーツや文化芸術活動を幅広い世代の方と交流できます。
- 《デメリット》
- △保護者の経済的な負担や時間的な拘束の可能性があります。
 - △兼職兼業の教員も含め地域での指導者が不足する可能性があります。
 - △学校内での帰属意識や人間関係の構築は低下する可能性があります。

他にも、地域移行によるメリット・デメリットが生じる可能性もあります。
実証モデル事業の中で検証・分析し、本格事業につなげていこうと考えています。

●部活動と地域クラブと既存のクラブの違いは何ですか？

【部活動】は、平日の学校活動として今までどおりの活動を続けていきます。学校に設定されている部活動に所属し同じ学校の生徒と顧問の先生と一緒に取り組んでいきます。

休日については、学校の部活動として活動はしません。将来的には、平日の部活動も廃止され地域移行する計画が出されており、いずれ学校活動から部活動はなくなろうとしています。

【地域クラブ】は、活動がなくなる休日の学校部活動の代わりに、中学生にスポーツや文化芸術に触れる機会を設けるために市が新たに設置しようとしているクラブです。印西市では、現在休日の活動がある種目の部活動の受け皿を設定する予定です。指導者の人材確保や活動場所、交通手段など考慮しなければならない課題はありますが、可能な限り、中学生が活動する機会や環境を整えられるよう準備しております。

《印西市が地域クラブの設定を予定している種目》

陸上競技 野球 サッカー バスケットボール（男・女） 卓球（男・女）
バレーボール（男・女） バドミントン（男・女） 硬式テニス（男・女）
ソフトテニス（男・女） 柔道 剣道 吹奏楽

【既存のクラブ】は、学校外の場所で活動している習い事としてのクラブを指します。硬式野球チームやラグビースクール、外部のサッカーやバスケットボールのクラブ、スポーツクラブでのダンスや水泳などの種目があります。月謝など費用がかかるクラブもスポーツ少年団のように費用がかからないクラブもあります。ピアノやヴァイオリンなどの音楽教室も柏レイソルや千葉ジェッツなどのプロスポーツチームの下部組織もこの【既存のクラブ】に含まれます。

アンケートの中にダンスやボルダリングなど部活動に設定のない種目を望む声がありました。市として休日に活動している部活動の受け皿になる地域クラブを設定するため、新たな種目の新設は予定しておりません。しかし、今まで以上に部活動やクラブへの所属の仕方や選択肢が増えます。

（例）平日は部活動に所属せず、休日のみ地域クラブに所属する。

平日は野球部に所属し、休日は野球の地域クラブに所属する。

平日はバドミントン部に所属し、休日は柔道の地域クラブに所属する。

平日はバスケットボール部に所属し、休日はどこにも所属せず自分の時間を過ごす。

平日も休日も既存のクラブに所属し、1つの競技や種目に取り組む。

平日も休日も部活動やクラブに所属せず、自分の趣味や習い事をする。

自分のライフスタイルに合わせ、スポーツや文化芸術に対して今まで以上に様々な関わり方を持つことができるようになり、スポーツや文化芸術に触れあう可能性や選択の自由度が広がります。

●地域クラブでは誰が指導者になるのですか？

地域クラブは学校活動ではないので、部活動の顧問の先生が指導するわけではありません。部活動とは違う地域クラブ活動では、印西市の地域クラブに登録し雇用された『地域の指導者』が地域クラブに所属した子どもたち（中学生）を指導します。なお、教員の兼職兼業が可能となるため、教員が地域の指導者として登録する場合があります。その場合、『先生』という立場ではなく、他の職業の指導者の方と同様に『地域の指導者』として指導に当たります。



お問い合わせ
印西市教育委員会指導課

TEL 0476-33-4705 MAIL sidouka@city.inzai.chiba.jp



印西市の 部活動地域移行について

部活動地域移行アンケートの回答

前号では、アンケートに多く寄せられたご質問の中で、スポーツ庁や文化庁、県が示している部活動地域移行の取組について説明いたしました。その指針を受け、印西市でも部活動推進協議会で議論を重ね方針を決定いたしました。市内中学校の実態や課題を把握した上で、部活動地域移行の在り方や今後の方向性について今回のリーフレットを通じて説明いたします。

◆◆◆ 印西市の地域移行の在り方 ◆◆◆

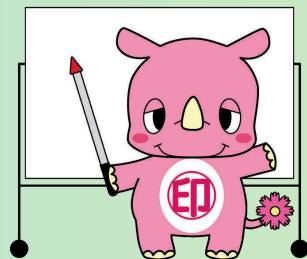
●部活動地域移行 = 学校部活動の一部廃止 + 新たな活動の在り方

学校活動から休日の部活動が切り離され、休日の部活動が廃止となります。部活動を通して心身に鍛えてきた中学生のために、スポーツや文化芸術に触れる機会を奪わないよう、新たに受け皿を設定しようと準備しております。中学校の形にとらわれない、印西市の枠でスポーツ・文化芸術に触れることができるよう、新たな在り方で地域クラブを展開していこうと考えています。

●印西市の実態と課題

- ・大規模校と小規模校の混在
- ・成田線沿線と北総線沿線の学校の生徒数推移
 - ⇒ひとつの部活動あたりの部員数（多：80人／少：2人）の格差
 - ⇒学校ごとの設置部活動数の格差（多：18部活動／少：2部活動）
 - ⇒性別的な部活動の設置の格差（女子〇〇部はあるのに、男子〇〇部はない）
 - ⇒学校施設の問題（生徒数増加で部活動を新設したいが活動する場所がない）等

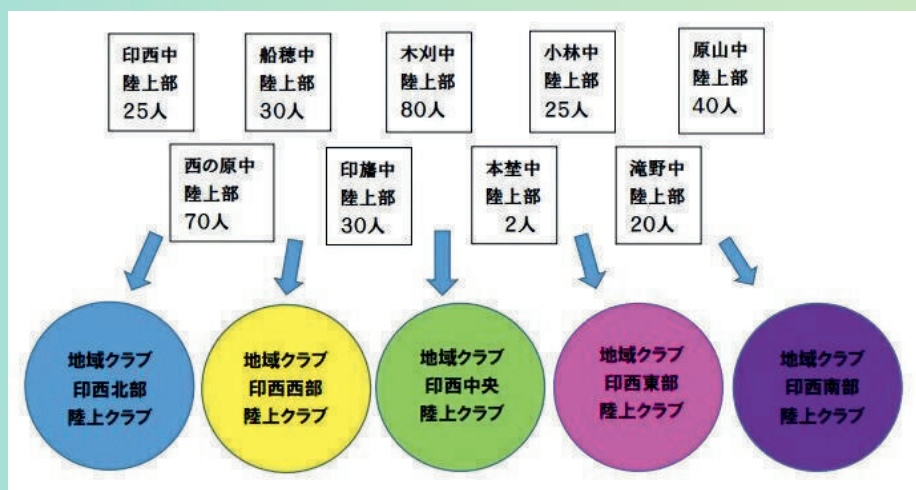
※学校ごとの課題ではなく、市全体の課題として共有し解決策を考えていく必要があります。



●印西市の部活動地域移行のイメージ図（例）

学校ごとではなく、市全体を1つの単位として考え、種目に取り組む競技人口に適したクラブ数を設置します。休日活動したい生徒は自分が所属したい地域クラブ（学校施設を使用）に登録し活動していきます。

指導者については、兼職兼業の教員を含む地域の指導者が登録しそれぞれの地域クラブに配置されます。この地域クラブで大会に参加していきます。



お問い合わせ
印西市教育委員会指導課

TEL 0476-33-4705 MAIL sidouka@city.inzai.chiba.jp

